

Niigata Award News

(食の新潟国際賞財団通信)

2010/06/18 第4号

Topics

- ・第3回理事会開催について
- ・受賞者選考委員会開催について
- ・寄稿「もう一人の佐野藤三郎さん」
- ・事務局レポ「クボタeプロジェクト」
- ・食の新潟応援団(賛助会)会員名簿

平成21年度第3回理事会を開催しました



平成22年4月27日、食の新潟国際賞財団理事会を開催しました。

今回の理事会では、これまでの推薦活動、選考活動等に係る報告がされた他、平成22年度の活動計画案と収支予算について承認されました。

食の新潟国際賞選考委員会を開催しました



平成22年5月28日、東京にて食の新潟国際賞最終選考会議を行いました。11名の選考委員によるこの日の議論を経て、最終候補者が理事会に報告されます。

もう一人の佐野藤三郎さん

～農業の武士(もののふ)“八田與一”さんの壮絶な生きざま～
(“食糧と水”の観点より、4月末“烏山頭ダム(台湾台南)”視察)

評議員 山口 寛治

(三菱商事 前顧問・奥野総合法律事務所 特別顧問)



八田與一さんは、1886年2月21日、金沢で生まれ、東大土木工学を卒業後、24歳で台湾総督府に勤務、赴任後は台南市の上水道工事や、桃園の水利事業を成功させ、水利技術の第一人者として認められる様になった。1918年に、洪水・旱魃(かんばつ)・塩害の三重苦に深刻に悩まされていた嘉南大平原を救う事を命ぜられ、本格的な調査に入り、予算も編成した(工事費の総決算の1/2は国庫補助。総督府費用の半分近くが、この工事に使われたと台湾の人はいふ。一並々ならぬ政治力一)。

以後10年、文字通りの粉骨砕身、台湾の人々を指導し、ダム建設に邁進、成功に導いた。素晴らしいのは、この当時アジアといわれた雄大な烏山頭(うさんとう)ダムと16,000km(=地球半周分)に及ぶ網の目の如き、灌漑用水路の建設に当たり、不断に人情味のある現場責任者として農民に接し、彼等より心から慕われた、との事。徐金錫水利会会長の話では、難しい局面に多々遭遇した為、八田與一さんの銅像は困って頭に手をやり、ダムを見詰めているとの事。日本の時代が終わり、蒋介石が日本の形跡を消す事に躍起になっていた時代、農民達は、銅像をこっそりと保管、ご夫妻の墓と共に、お祀りした。



烏山頭ダム管理棟



送水室完成後の第一次放水の様子



八田氏は今でもダムを見守っている

嘉南農田水利会と農民は、報恩の志を以って過去68年余、5月8日の命日には、一年も欠かさず、墓前で追悼式を挙行している由。

その後、八田與一さんは、1942年(昭和17年)フィリピンでの灌漑計画を命ぜられ、その赴任途上、乗っていた“大洋丸”がアメリカの潜水艦攻撃を受け沈没、命を落とされた。3年後、日本人は一人残らず台湾を去らなければならなくなった。

烏山頭に疎開していた妻の外代樹(とよき)さんはご子息達に会った日(9月1日)にダムの放水口に身を投げて後を追われた。8人の子供がいて何故、自殺されたのか。いろいろ意見もあるが、武士とその妻の壮絶な生きざま(乃木大将と令夫人の例もあり)としかいい様がない。水利会会長徐金錫氏がいわれるには、先の大地震の時にも、このダムは、びくともしなかつたと。

佐野藤三郎さんが中国三江平原(世界3大穀倉地帯の一つ)の“北大荒”といわれる湿地帯を見事な耕地に変えられた事。八田與一さんの上述した偉大な水利事業、共に日中・日台の根幹からの友好を築き上げられたものといえる。後輩の我々は、お二人の偉業を広く顕彰する義務があると思う。

世界最大の食糧消費国、中国。6年豊作が続いたが、これから10年続くとは中国人も思っていない。豊作と凶作は大きなサイクルを描いているといわれている。世界的に人口増加(家畜も増加)、エタノール生産も増加、明らかに供給が間に合わぬ。飢餓人口10億人が更に増える。心から、お二人に感謝したい。ダムに佇(たたず)み、思いを馳せると涙が出てくる。



八田與一技師全家福

八田氏とご家族

事務局レポ

農業の未来づくり大作戦 クボタeプロジェクトの取組み

地球環境保全や日本農業の活性化を支援しようと、(株)クボタは、2008年に新たな取り組みとして「クボタeプロジェクト」を始動させました。

eプロジェクトは、earth(地球)・ecology(環境保全)・education(教育・農育)・eat(安心で安全な食料)・eau(安全で美しい水)・emotion(生きる感動)の6つの視点と、地域支援・農育支援・農家支援・環境保全・地域貢献の5つをテーマに、地域・農家・学校などと緊密に連携しながら全国各地で様々な活動を行っています。



eプロジェクトに参加して、酒造好適米「越淡麗」の収量が増えました



子どもたちと一緒に菜種を播きます

新潟県内では、長岡市栃尾の棚田、長岡市高内地区「大河津ネット」、小千谷市山本山高原の3か所がeプロジェクトの支援を受けました。そして今年妙高市大洞原でも新たなeプロジェクトが始まりました。詳細は次ページにてご報告します。

↓↓eプロジェクトHPはこちら↓↓

・クボタeプロジェクト

<http://www.kubota.co.jp/epro/>

・みんなの農業広場

<http://www.jeinou.com/index.html>

eプロジェクトを関西経済連合会が視察！

6月2日、クボタが加盟する関西経済連合会が大洞原のeプロジェクトを視察しました。

視察団の目の前で、トラクタの大きな刃が固い土を掘り返していくと、雑草の生い茂った野原があっという間に黒土に覆われます。

実際に見ていただくことで、関西の皆さんにも大洞原の取組みについてより実感をもってご理解いただけたと思います。



不耕作地を再生！新潟県妙高市大洞原農地再生計画

平成22年5月25日、新潟県妙高市の大洞原で新しく始動したクボタeプロジェクトの取材に行ってきました。

再生される耕地は総面積5.5ヘクタール。この広大な土地を、3年をかけて見渡す限り一面の花畑と山菜園にする計画です。

ここ大洞原は以前は酪農地として利用されていましたが、経営が厳しくなるにつれ、酪農を止め畑作農家になる人が多くなりました。酪農のための牧草地は約5ヘクタール、ところがそれだけの用地を全て耕作するには大変な労力がかかります。そして農家の高齢化、後継者不足などの理由から、だんだんと不耕作地化が進んでしまいました。



耕作に活躍するクボタのトラクタと妙高山

このプロジェクトは、妙高大洞原農地再生推進協議会が中心となって進めています。協議会の山田事務局長は「地域全体の活性化をはかりたいと考えていたところ、縁あってeプロジェクトの支援が受けられることになった。プロジェクトを通じ、地域活性の仕組みを作っていきたい」と話してくださいました。



掘り返した土は真っ黒です

トラクタが耕した土が黒いのは、昔、妙高山が噴火した時に降ってきた火山灰が混じっているからだそうです。

今日の主な作業は、掘り返した土に混じっている大きな石を取り除くことです。石があると、畑の土づくりの邪魔になるからです。事務局も作業のお手伝いをしました。



土の中の石を取り除いていきます

今日耕した場所には、そば、キキョウ、ガザニア等の種が播かれる予定です。種まきは地元の人と一緒に、6月中旬に行われます。花は夏から秋にかけて咲くそうです。開花が待たれます。

食の新潟応援団(賛助会) 会員名簿 (平成22年6月17日現在 順不同、敬称略)

特別会員		
亀田製菓(株)	(株)ブルボン	亀田郷土地改良区
東京電力(株)	第四銀行	学校法人 新潟総合学園
(株)新宣	新潟県農業協同組合中央会	一正蒲鉾(株)
新潟市農業協同組合	新潟みらい農業協同組合	(株)エイケイ
新津さつき農業協同組合	佐藤食品工業(株)	三井物産(株)新潟支店
三菱商事(株)新潟支店	新潟日報社	ホテル朱鷺メッセ(株)
(株)新潟総合テレビ	(株)電通東日本新潟支社	(株)栗山米菓
(株)新潟クボタ	(株)ADEKA	にいがた22の会

正会員(法人)		
(株)第一印刷所	新潟県信用組合	(株)新潟放送
(株)タカヨシ	(株)本間組	(医)愛仁会 亀田第一病院
石本酒造(株)	(株)ミカサ	山崎醸造(株)
(株)ヤマジュウ風間	神山物産(株)	新潟陸運(株)
(株)山忠	シヨクザイ新潟(株)	新潟食品運輸(株)
丸七商事(株)	大東産業(株)	月島食品工業(株)
藤屋段ボール(株)	伊藤忠商事(株)新潟支店	新潟工科大学産学交流会
日本たばこ産業(株)新潟支店	(株)新潟博報堂	(株)タケショー
(株)フジテレビジョン	日本製粉(株)関東支店	(株)キタック
日本甜菜製糖(株)	佐川急便(株)関東支社	丸榮製粉(株)
鍋林(株)ヘルスフーズ事業部	レンゴー(株)新潟工場	松田産業(株)
(株)北村製作所	北越工業(株)	(株)鳥梅
(株)山由製作所	(株)細山商店	新潟万代島総合企画(株)
(株)テレビ新潟放送網	(株)栗田工務店	三和薬品(株)
セツカートン(株)新潟工場	(株)藤井商店	ハセガワ化成工業(株)
日本精機(株)	東邦産業(株)	サクラパックス(株)新潟事業所
日精サービス(株)	麒麟山酒造(株)	

正会員(個人)		
井田 増夫	山口 眞樹	藤島 安之
新保 房機	大越 斎	今泉 昇
酒井 定勝	坂田 武利	佐藤 宗幸
浅嶋 義之	増村 文夫	宮澤 正幸
児玉 伸	鈴木 厚生	高嶋 潔
和田 充彦		

食の新潟応援団(賛助会)募集中！

食を通じて飢餓や貧困などに苦しむ世界の現状に目を向けると、日本にいる私たちにも食の危機が及びつつあり、世界の人々の命が一つにつながっていることがわかります。食と私たちの命を守る本財団の事業に賛同し応援してくださる皆様を募集しています。詳しくはホームページをご覧ください。

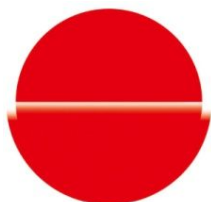
ホームページアドレス:

<http://www.niigata-award.jp/jp/join/index.html>

編集後記

トップページでもお伝えしましたが、食の新潟国際賞選考委員会が開催されました。

次号は第一回食の新潟国際賞受賞者3名とその業績について詳しくお伝えします。発行は8月の予定です。



Niigata Award

Niigata Award News (季刊・年4回発行)

発行: 一般財団法人

食の新潟国際賞財団事務局

〒951-8131

新潟市中央区白山浦1丁目425-9

新潟市白山浦庁舎内

<http://www.niigata-award.jp>

info@niigata-award.jp